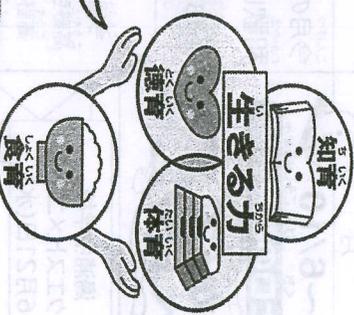


6月 パタパタ通信

令和5年6月
芦北町学校給食センター

毎年6月は旬が覚める「食育旬簡」です。生きていく上で欠かせずこのできない「食」を食べること。学校給食においても、児童生徒が生涯にわたって健康で心豊かに暮らしていくために、食に関する気遣いを身に付け、健全な食生活を実践できる力を育てることを目指しています。

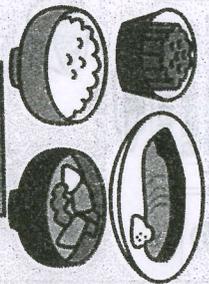
ご家庭は、子どもたちが実践して身に付けていく大切な学びの場です。この機会に、わが家の「食」について考えてみませんか。



家庭で取り組みたい「食育」

◆「食育基本法」では、「子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何よりも「食」が重要である」と明記され、食育を「生きる上で基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの」と位置付けています。

朝ごはんを食べる



一緒に食事の支度をする



家族で食卓を囲む



わが家の味を伝える



芦北町の有限会社綱田牧場様より「羊ひき肉」を無償でご提供いただきました5月の給食に使用しました。

5月 8日(月) スパゲティミートソース
5月19日(金) じゃがいものそぼろ煮
5月29日(月) ジャージャーうどん



お肉がミンチ状態で、どこにでも入っていておいしかったです。



お肉の味が濃くて、とてもおいしかったです。



*綱田牧場様ありがとうございました。

芦北高校生が考えた 野菜のおいしさを伝えたいメニュー

児童生徒のみなさん、もつと野菜を好きになつてもらいたいと思います、芦北高校の2年生が考えた「野菜のおいしさを伝えたいメニュー」を昨年度より実施しています。どのメニューにも「児童生徒のみなさんに野菜をおいしく食べてもらつて健康な体づくりに役立ててもらいたい」という願いが込められています。

6月9日と6月12日の「野菜のおいしさを伝えたいメニュー」の紹介

作成者 芦北高校2年 農業科 林田大和さん

【夏野菜と鶏肉のオニタソース炒め】*分量は1人分

作成者 芦北高校2年 農業科 山下純弥さん



【鶏とトマトの野菜シチュー】*分量は1人分

材料名	分量	作り方
なす(大)	1個	①なすは、ヘタを除き、四つ切りにし、乱切りにして、水につけアクを抜く。 ②ピーマンは、縦半分に切って、種とヘタを取り、一口大に切る。 ③鶏肉は、ポリウムが出るように大きめに切り、両面に片栗粉をまぶす。 ④大きめのフライパンにサラダ油を中火で熱し、にんにくを炒め、鶏肉を皮目の方から入れ、2〜3分焼いて焦げ目をつけ、裏返して反対面も焼く。蓋をして5分ほど蒸し焼きにして火を通す。 ⑤酒を回し入れ、なすを焼きつけるように炒める。 ⑥ピーマンを入れ、調味料を全体に回しかけるようにして混ぜ合わせる。
ピーマン	1個	
鶏肉	1枚	
おろしにんにく	小さじ1	
酒	大さじ1	
片栗粉	大さじ2	
サラダ油	適量	
(調味料) オニタソース	大さじ1	
トマトケチャップ	大さじ1	
しょうゆ	大さじ1/2	
砂糖	小さじ1	

写真



味つけにオニタソースだけでなく、ケチャップを使用することで、みんなが好きな味つけにして、食欲が湧くようにしました。夏野菜と鶏肉を合わせることで、たくさん食べてもらえるようにしました。

児童生徒に伝えたいこと

材料名	分量	作り方
なす	20g	①なすは、半月切りの4〜5mm幅に切る。 ③たまねぎは、半月切りの4mm幅に切る。 ④オクラは、洗って塩をまぶして板ずりして、塩を洗い流し、斜めに切る ②トマトは、ヘタを除いてみじん切りの要領で切る。 ⑤鶏肉は、ぶつ切りにして、塩、こしょうをふり、片栗粉を薄くまぶす。 ⑥フライパンにオリーブ油を中火で熱し、にんにくを炒め、鶏肉を並べ、なすとたまねぎをのせ3分位焼く。 ⑦鶏肉が焼けたら、トマトとコンソメを入れて、トマトがふつふつとするまで3〜4分煮る。 ⑧オクラを入れて1〜2分煮る。
たまねぎ	35g	
オクラ	1〜2本	
トマト	50g	
鶏もも肉	70g	
塩	2g	
こしょう	少々	
片栗粉	適量	
オリーブ油	適量	
おろしにんにく	適量	
コンソメ	適量	

写真



夏でも冬でもおいしく、栄養バランスのとれるように工夫しました。野菜が苦手でも食べやすくするために、トマトとコンソメをペーンとしたスープに仕上げました。野菜が苦手な人もぜひ食べてみてください。

児童生徒に伝えたいこと